

1. 日時：平成 26 年 6 月 24 日（火）19:00～22:00
2. 場所：埼玉県理学療法士会 上尾事務室
3. 出席者：会長－清宮
副会長－望月、岡持、解良
理事－水田、本宮、矢野、細井、河合、原嶋、飛田
監事－前園
委員長・部長、他－山崎、石井、高橋
書記－小川、橋本
司会－清宮
欠席：原、渡邊（雅）、野田、桑原、田尻

「公益法人会計システム導入について」

株式会社ミロク情報サービスさいたま支社担当者より公益法人会計システム MJSLINK-NX1 の特徴として、新公益法人会計基準に準じていること、エクセルデータをそのまま取り込むことができること、インターネットを介して外部からシステム操作可能であること、決算書の作成が容易になること、引継ぎ業務の簡素化につながるなどが挙げられるとの説明があった。

高橋税理士より、現状のままでは公益社団法人として必要な帳票などの会計管理が不十分である。それらの必要な財務管理を従来通り財務部に任せて手作業で行うのか、予算を当ててシステム管理していくのかを検討してほしいとの説明があった。

原嶋東部ブロック長より、現状のやり方でエクセルに入力する方法で提出に必要な書類は作成できないのか、今回のシステムを利用するとどこが変わるのかとの質問があった。

ミロク情報サービスより、現状では各部局ごとに会計報告のためにエクセル入力をしているが、元帳を作成する場合には公益社団法人全体としての報告が必要である。そのため、全ての部局が入力したエクセルを一つにまとめて入力し直す作業が必要となっている。システムを利用すれば、各部局で入力したエクセルデータをサーバーの中で統合し、必要な書類形式として打ち出すことが可能となることが説明された。前園監事より、勘定項目の追加や部局の増減などにも対応可能かどうか、メンテナンスやランニングコストについての質問があった。

ミロク情報サービスより、勘定項目の追加や部局の増減などは対応可能であること、今回の見積もりにはメンテナンスやランニングコストも算出してあり、さらなるオプション設定も別途あると説明された。

清宮会長より、財務局出納部に士会全体の出納簿があり、そこから各部局ごとの出納簿に振り分けることで管理している。年度末に各部局から出納部に残金を振り込み、それぞれの出納簿と領収を確認することで決算を行っている。決算書作成は出納部長が一括管理しているため、部局ごとの勘定項目まで作成することは困難な状況であると説明があった。

解良副会長より、サーバーの管理はどこで行うのか、管理方法や故障時の対応について質問があった。

清宮会長より、サーバーの管理は事務室を予定しているとの返答があった。

・清宮会長「H26 年度追加事業について」 *審議

岡持副会長より、職能局予算の内訳について質問があった。

清宮会長より、地域包括ケアシステムの導入やリーダー研修会開催費用などの補填のための概算であるとの返答があった。

細井教育局長より、総会で事業計画案の追加として報告する必要があるのではないかとの意見があった。

清宮会長より、総会にて収支差額に対する公益事業として報告する予定であるとの説明があった。

・清宮会長より「公益法人会計システム導入について」 ＊審議

山崎出納部長より、出納部の業務として、年度末に決算が集中すること、予算の執行に複数の部局が関係している場合にそれぞれの部局の出納簿を手計算で確認する作業が煩雑であること、勘定項目の振り分け作業に多くの時間が割かれることで出納部の業務が滞ってしまい、税理士に提出する書類作成が大幅に遅れてしまっているとの報告があった。これらの問題点を改善し、出納簿を管理・運営していくために公益法人会計システムの導入について検討頂きたいとの説明があった。

清宮会長より、システムを導入することで問題点が解決できる見込みはあるかとの質問があった。

山崎出納部長より、各部局の出納簿を集めて手計算で行っている確認作業がコンピューターでできるので、誤りが減って業務の改善につながるのではないかと意見があった。

細井教育局長より、システムを導入しても部局の会計担当者の業務については改善にはつながらないのではないかと意見があった。

原嶋東部ブロック長より、システム導入により収支は分かりやすくなるが、予算との関係はどのように確認していくのかとの質問があった。

清宮会長より、予算額の中からどの程度支出しているか確認することはできるか業者に確認したところ、今回のパッケージにはそのような仕様は含まれていないため、別途費用がかかるだろうとの返答があった。

細井教育局長より、類似商品の他社メーカーの見積もりを取って、比較検討していくことが必要ではないかと意見があった。

解良副会長より、システムを購入するのか、リース契約とするのか、どちらの方がメリットがあるのか確認する必要があるのではないかと意見があった。

細井教育局長より、日本理学療法士協会や他県士会の財務システムの現状について質問があった。

清宮会長より、他県士会の現状として、栃木県士会と神奈川県士会に確認したが、どちらも会計システムは導入していないとのことであった。協会については専任の会計士と会計職員がいるため比較検討はできないが、どのようなシステムを導入しているかは確認することができるのではないかと返答があった。

公益法人会計システム導入に向けて、対抗備品の見積もりを取って比較検討していくことで理事会の承認を得た。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印